

毎週日曜発行  
2022 9/11

# こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



## 地球のためにできること

### 遠い国の話ではない「飢え」



食べる物がなくて困っている人に、無料で食料品を届ける「フードバンク」という仕組みがあります。実は日本でも「飢え」は身近な問題です。仙台市で活動する「フードバンク仙台」を訪ねて、

きょうのテーマ

# 生きる原点 食料を届ける



現状を聞きました。

フードバンク仙台は2020年5月に発足。新型コロナウイルス対策で緊急事態宣言が出され、仕事を失ったり収入が減ったりして、食事を満足に取れない家庭を助けるためでした。



スタッフの川久保亮弘さん(35)は「お年寄りから障害のある人、ひとり親の家庭、外国人留学生ら、さまざまな人が助けを求めている」と話します。働いていても食事に困っている人は珍しくないそう。川久保さんは「働かない人、サボっている人の問題だ

と考えるだけでほしい」と訴えます。イアが配達します。



SOSの声を上げた人に届けるのは、1週間分の食料。米やカップ麺、パスタ、レトルト食品やお菓子など、日持ちのする食品を詰め合わせ、家族の人数分だけボランティア

ことし3月までにフードバンク仙台を利用した人は、延べ5815世帯の1万4304人、約30万食分に上りました。初



困っている家庭向けに届ける食料品を箱詰(づ)めするフードバンク仙台のスタッフ

めて利用する人がまだまだいる。問題はかなり深刻です」と川久保さんは指摘します。

届ける食料は、個人や企業、団体から寄付されたものと、寄付金で買った品。利益が出る活動ではないので、運営は大変です。食料を買う資金を集めるため、インターネットでの募金も行っています。

最近では、家や学校で余った食料を寄付してくれる動きもあるとのこと。賞味期限まで1カ月ほど余裕があり、常温で保存できる食品を募っています。

川久保さんは「食事は人として生きることの原点。飢えが遠い国の話ではないという現状を知って、身近な人に伝えてほしい」と呼びかけます。

食品の無駄をなくすことも問題解決に役立つよ。何ができるか、みんなも考えてね。

### 今週の注目ニュース

◇12日(月) 宇宙の日

1992年のこの日、宇宙飛行士・毛利衛さんが、アメリカのスペースシャトルで、日本人として初めて宇宙に飛び立ったんだ。人類で初めて宇宙に行ったのは、旧ソ連のユーリ・ガガーリン。61年のことだったよ。

### きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7・8面 投稿特集

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ